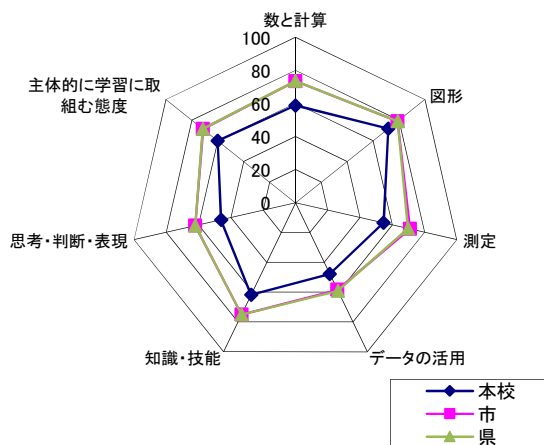


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.8	73.5	73.6
	図形	71.8	79.0	79.1
	測定	54.6	71.1	69.8
	データの活用	47.8	58.4	59.2
観点	知識・技能	61.7	75.0	75.0
	思考・判断・表現	46.1	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	60.1	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>●整数-小数第一位の計算においては、校内正答率が23.7%で県平均正答率より30.6ポイント下回った。数の概念の理解が不十分なため、計算の正答率が低いという結果がうかがえる。</p>	<p>・位取りや小数点を合わせるなどの計算問題を繰り返すことで知識の習得を図り、小数に進んで関わり、生活や学習に活用できるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>○正三角形を作図する設問の正答率は89.7%で、県の平均を1.9ポイント上回った。</p> <p>●球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求める問題の正答率は60.8%で、県の平均より12.4ポイント下回っており、課題がみられる。</p>	<p>・円や球の半径、直径の関係を意識しながらコンパスを使用して作図したり、駒やボールなどの具体物に触れたりすることで、これらの関係の理解を深める学習を進める。</p>
測定	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>●単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になることを説明する設問に対する正答率は34%で県より21ポイント下回っている。また、道のりの意味を理解する設問に対する正答率は、68%で県より20.1ポイント下回っている。</p>	<p>・物の長さや重さや時間に関わる活動を増やし、適切な単位で表すことができるようにする学習を継続的に取り入れる。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>●表と棒グラフの3つの設問の正答率はいずれも県の正答率より10ポイント以上下回った。特に複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る設問の正答率が44.3%と低く、県の平均正答率より12.2ポイント下回った。</p>	<p>・日頃から棒グラフに触れたり作成したりする活動を取り入れて、最小目盛りが2ずつ、5ずつまたは20ずつ、50ずつの棒グラフや、複数の棒グラフを組み合わせたグラフなどの特徴を正しく捉えられるようにする。</p>